

避難所の事例から考える

私にできること

私たちは、同じ地域で、さまざまな人と共に暮らしています。私たちが安心して気持ち良く暮らしていくためには、自分のことだけを考えるのではなく、相手のことや周囲の人のことも考え、思いやる必要があります。そして困っている人がいれば手を差し伸べること、自分ができることを考えることも大切です。

しかし、例えば地震や台風など災害の非常時、ストレスが強くかかり切迫した状況の中でも、私たちは手を取り合うことができますでしょうか。今号では、避難所で起こり得る人権トラブルから、私たちができることを考えていきます。

人権・男女共同参画課 / Tel674-7575 083598



考えてみて

避難した先のこと

災害は、私たちに大きな心理負担を与えます。家財を失ったり、親しい人が犠牲になったりと、不安や悲しみを抱えたまま避難することは、とてもつらいこと。

また避難グッズを抱え家族とともに移動する際の疲労、家族以外の避難者との共同生活、避難スペースの確保など、日常と異なる状況に、肉体的にも大きな負担がかかります。



出典 (一財) 消防防災科学センター「災害写真データベース」



あふれかえる人

不安やストレス抱え

避難所には収容できる人数に制限があり、大きな災害で多数の住民が避難すると、一時的に人があふれかえります。生活環境が激変する中、プライベートな空間も十分に確保できず、不安や恐怖、悲しみの感情を抱えながら睡眠不足になることも。

また避難生活が長引くにつれ疲労が蓄積。将来の不安や慣れない生活のストレスも増大し、うつやパニックなどの症状が現れる人もいます。

薄らぐ他者への思いやり

行き過ぎれば差別や人権侵害に

このような状況の中、私たちは何ができるでしょうか。誰もが自分や家族を守ることが最優先になりますが、それは他者にとっても同じこと。あるいは自分よりも一層困難な状況にある人々とも、生活していかなければなりません。

助け合うことが大事だとは分かっている、切迫した状況で自分に余裕がないと、他者への思いやりが薄らぐことがあります。それが言動となって相手を傷つけたり、行き過ぎれば差別や人権侵害にもつながりかねません。



避難所で起こる 事例

ここで紹介する事例は、過去の災害時に生じた事例を元に編集を加え、フィクションにしたものです。年齢や性別、特性、状況などは架空の設定です。

シチュエーション

大きな台風が接近し、河川が氾濫。長期間にわたる洪水被害によりA地域に住む住民の多くが、高台にあるB地域へ避難しました。

B地域の避難所は、多くの避難者であふれかえり、物資が不足している状況です。ひっ迫した状況の中、不安や恐怖、いらだちなど、さまざまな感情が渦巻いています。

事例1

泣きやまない乳児を抱える母親へ 心ない言葉

生後6カ月の乳児を抱え、避難してきた20代の女性。配偶者は海外に単身赴任しているため2人で避難してきました。

乳児は避難所の環境に慣れず、避難した当初から大きな声で泣き続けています。母親があやしても泣きやまず、避難所内に泣き声が響きます。すると遠くで誰かが「やかましいわ」という声。

母親はいたたまれない気持ちで、避難所から出て、外で泣きやむまであやしていました。



事例2

孤立している人が 疎外感を感じる

1人暮らしの60代の男性。元々引っ越してきたばかりで友人がいませんでした。避難所にも1人で訪れ、長期間滞在することに。周囲の人は顔見知りが多いのか、会話したり、避難所運営を手伝ったりしていましたが、この男性には声がかからず孤立。次第に疎外感を感じ、うつ状態になってしまいました。



事例3

人それぞれの特性への理解と コミュニケーションの不足

何でも物に執着して集める特性があり、気付けば周囲は物であふれかえっていることがある小学生の男の子。避難所でも同様の状態でいたところ、その特性を知らずに、避難所のボランティアの人が良かれと思って掃除と整理をしました。それに気が付いた男の子は、大声を上げてパニック状態に。



避難所 コラム

トラブルが起こりやすいケース

世論調査※で、東日本大震災の被災者にどのような人権侵害が起きていると思うか聞いたところ「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかいや虐待」を挙げた人の割合が61.4%。非常時の余裕のない状況で、他者への理解や配慮、コミュニケーションが不足したときなどに、トラブルが起こりやすいと考えられます。

※内閣府「世論調査報告書（平成29年度）」

困難な立場の人

高齢者や障がい者、子ども、妊婦、外国人、病気の人などは、いわゆる要配慮者と言われます。避難自体が難しいだけでなく、情報が届かなかったり、精神的に不安定になりやすかったりと、避難所で困難な立場に置かれやすく、トラブルに遭う可能性も高くなります。

助け合いが重要

緊急時には、自分と家族の命を守る行動（自助）と、公的な支援（公助）、そして近隣住民や被災者と互いに助け合うこと（共助）の相互連携が大切です。そのためにも、地域の中で日頃から声を掛け合うなど、顔の見える関係をつくっておくことが重要です。

何ができるか 考える

「自分たちがもし避難所で生活することになったら」を考え、そこで起こる問題や自分にできることを、中学1年生の4人に考えてもらいました。



左から中島大輝さん、平井旺士朗さん、藤原璃唯菜さん、新部莉都さん

「私たちが考えてみました」



Q 避難所生活を想像してみしてほしい。どんなことに困る？

新部 隣の人のいびきかな。ぐっすり寝られないのはつらいかも。

中島 それに赤ちゃんとかもいたら、泣き声で眠れないと思う。

藤原 そうやんな。疲れていると思うし休みたいのに休まれへん。

平井 僕も一緒。慣れない所で知らない人も多くて不安で疲れていると思う。

中島 空腹も耐えられへんかも。

平井 ご飯食べないと元気出ないけど、避難所にご飯あるかな。

Q 自分以外に困っている人はいるかな？

藤原 赤ちゃんをあやしてるお母さんも、しんどいと思う。

新部 赤ちゃんは泣くのが仕事なんやから仕方ないやんな。みんなが我慢するしかないかな。

平井 じゃあお母さんと赤ちゃんが避難したら、ブルーシートで仕切りをつくるとか、別の部屋を用意するとか？

Q 他にはどうかな？

中島 多分すごく不安になってパニックになる人もいると思う。

平井 僕もそう思う。家族がそろっていないかもしれないし。家がどうなっているかも心配やし。

新部 不安に耐えられなくなる。

藤原 パニックで大声出したり、泣き出したり。

新部 あと、ペットを連れてくる人に困る人もいると思う。避難所でアレルギーの人もあるし、鳴き声もするし。

中島 でも家にペットだけ置いてくるわけにもいかない。飼っている人にとっては家族みたいなものやし。

平井 避難所の体育館や教室の中に入れると大変やから、ペットは屋外で暮らすことになるんかな。

Q どうしたら解決できる？みんなは何ができるかな？

中島 困っている人には誰か付き添ってくれる人が必要。お年寄りとか、目が見えない人とか、少し安心できるかも。

藤原 不安な人には話を聞いてあげたり、お母さんには代わりに赤ちゃんをあやしたりとか。あととはできないことを誰かが助けることかな。

新部 障がいのある人や病気の人を優先する。トイレも時間がかかると思うから先に行ってもらったらいと思う。

平井 家族と離れ離れになって不安な人には、携帯電話を貸してあげる。

新部 英語を勉強しているし、もし外国人で日本語が分からない人がいたら通訳する。あとお話するのは好きやから話し相手にもなれる。

藤原 アレルギーとかでご飯が食べられない人がいたら、食べられるものを作ってあげたり、事前に用意しているものを渡したり。

Q 実は今考えてくれたことは、普段の生活でも同じことだね。もしクラスメイトが困っていたらどう？

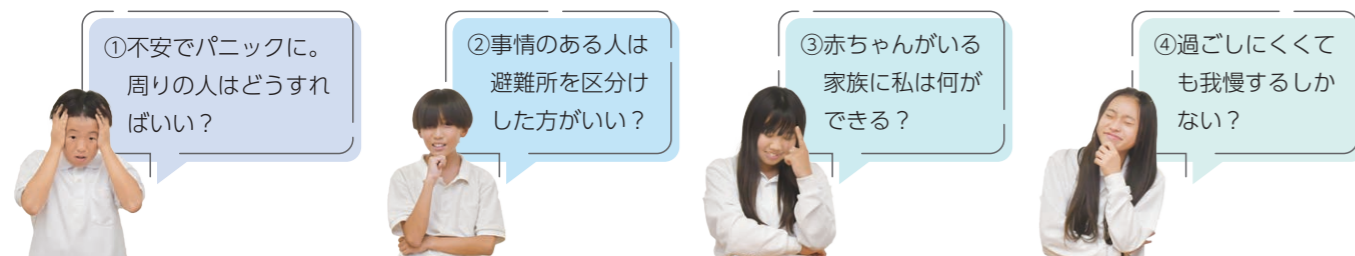
新部 1人で悩んだり困ったりしていたら声を掛けると思う。

中島 僕もできることがあれば、手伝ったり、話を聞いてあげたりする。

藤原 普段から仲良くなっておくのも大事。何かあったときにすぐに気付くし、声も掛けやすくなるから。

平井 相手の気持ちを分かろうとする。それに自分たちで助け合うことが大切だと思う。

悩んだこと



①不安でパニックに。周りの人はどうすればいい？

②事情のある人は避難所を区分けした方がいい？

③赤ちゃんがいる家族に私は何ができる？

④過ごしにくくても我慢するしかない？

気付いたこと



①手伝ったり話を聞いてあげたりする

②助け合い、相手の気持ちを分かろうとすることが大事

③お母さんの代わりに赤ちゃんを見てあげる

④悩んだり困ったりしていたら声を掛ける

INTERVIEWから 学ぶ

災害時に起こりやすい人権を損なうケースを元に、私たちが気を付けること、「災害時」と「日常」の関係を聞きました。

気象予報士・防災士

正木明さん

天気キャスターとして長年報道に携わる。生放送中に阪神淡路大震災を経験。また相次ぐ自然災害を目の当たりにし防災士の資格を取得。気象災害発生時には防災の視点を取り入れた気象情報も発信している。



共に暮らすためにできること

避難所での生活は想像よりも大変です。普段なら仕事と家庭を分けて、家庭で休息を取っていたはずが、避難所になるとその区切りがしづらく、ずっとストレスのかかった状態になります。

これが、季節が真冬、真夏などの状況下だとさらに過酷に。感染症対策なども重要で、過去には避難所内の大半が集団感染した事例も起こっています。

起こり得る人権トラブル

避難所で起こる人権課題として、男女の配慮の問題がまず挙げられます。長期間の避難所生活では、例えば下着の洗濯物を干すとき、トイレに行くときなど普段よりはるかに気にしなくてははいけません。物資の供給でも生理用品などの配布が後回しにされていた事例や、小さな赤ちゃんを抱えたお母さんが夜泣きする子をあやすために、周囲の人に気を遣って避難所の外に出たという事例もあります。

それ以外にも、世代間での考え方の違いから対立が生じてしまった事例、健康面・体調面で優れない人や障がいのある人、日本語が分からない外国人など、いわゆる災害弱者への偏見・差別的な言動の事

例などが発生しやすくなります。避難所にはいろいろな境遇の人が集まりますし、当然考え方・価値観も異なります。

視野と想像力

これらが起こる原因は、災害時の切迫した状況で自分のこと、家族のことしか考えられなくなって視野が狭くなることです。もちろん、まずは自助が基本ですので、自分の命、家族の命を守るのは当然のこと。大切なのは、避難時には誰もがそういう状況になるということ、あらかじめ理解しておくことです。

それを前提に、避難所という狭い空間の中で他者と生活していくためには、どういった配慮が必要か、どういう問題が起こりそうか、などを想定しておく。そのためには、やっぱり定期的に避難訓練に行ったり、避難した経験のある人から話を聞いたりすることが効果的です。

また、一方で、知らず知らずのうちに自分が加害者になっていないか、誰かを傷つけていないか、という想像力を持つことも重要です。

避難所には、色々な事情や心配事を抱えていて

も、自分の意見が言えない人もいます。悪気のない言動が、誰かの心をつらくさせていないか、少しでも周りを見渡して気付くことが、大切なのだと思います。

遠くの出来事を自分事に

避難所に行かなくてよいとき、普段の生活の中でこそ考えるのが大事だと、皆さんによく伝えていきます。

海外で竜巻が発生したというニュースが入ってきたとします。そのときに、もし自分の身の回りで同じことが起きたらどうするか、考えてみてください。例えば、帰り道で遭ったら、竜巻で家が壊れたら。同時に、誰がどんなことに困るのか、その人のために自分に何ができるのか、どうすれば共に乗り越えられるか、ということも考えてほしい。

そういう機会を増やすと、かなり意識が変わります。実際に災害に遭わなくても、自分のことに置き換えて考えてみる習慣を付けてみてください。

日常から意識して

ここまで避難所での事例を考えてきましたが、これらは避難所だけではなく、普段の生活でも同じことが起こり得ることだと気が付きます。

私たちは一人で生きているわけではありません。普段からさまざまな人と一緒に生活しています。災害時のことを考えてみることは、日常の中での他者との関わり合いや思いやりの気持ちについても、振り返るきっかけになると思います。

また、そういうことを日常の中でも考えていると、非常事態が起こったときでも、少し冷静に、周りの人を見て行動することができるのではないのでしょうか。



正木さんの アドバイス

①視野が狭くなりがちと想定

緊急時は誰もが視野が狭くなることを前提に考え、自分の行動を想定してください。

②経験の蓄積を

訓練の参加や当事者の経験を聞くこと、遠くの出来事を自分事に考えることで自分の経験値に。

③日常から意識して

災害時を想定することは、意識を見直すきっかけに。日頃から思いやりの気持ちを忘れないで。

12/4~10 人権週間のイベント

ID 045598

人権を考える 市民のつどい

今号で登場した正木明さんの講演のほか、「災害と人権」をテーマにしたパネル展を開催します

場所 生涯学習センター
2階多目的ホールほか

料金 無料

問合せ 市人権まちづくり協会
Tel647-7825、FAX647-7233



講演会～人権の視点から
自助・共助のまちづくり

12/9(土)14:00～16:00。申込順300人。
11/6(月)～12/4(月)にHP窓C F Mで
(基本事項と保育の有無記入)
※保育・手話通訳・要約筆記あり

特別展示「災害と人権」・
人権啓発作品展

12/8(金)・9(土) 10:00～17:00

ID 103718

フェスタ ヒューマンライツ

市民の世代間交流・多文化交流を図るため、
イベントを実施します

日時 12/2(土) 15:30～17:00、
3(日) 9:30～15:00

場所 富田ふれあい文化センターほか

料金 無料

問合せ Tel694-5451



ID 074430 当日先着

人権週間特設相談

人権についての悩みや心配事など人権擁護委員会
にご相談ください。電話も可

日時 12/9(土) 14:00～16:00

場所 男女共同参画センター

料金 無料

問合せ Tel685-3748